

# 雉岡城跡(本庄市児玉町)

きじがおかじょうあと

ここは雉岡城跡公園となっている



「雉岡城跡」と記された看板が立っている/雉岡城は別名八幡山城とも呼ばれる





説明板の後ろに見える高まりは土塁跡





振り返って見ても土塁跡が続いている





さじが おかじょうめと  
雉岡城跡

所在地 児玉郡児玉町大字八幡山

雉岡城跡は、別名八幡山城跡とも呼ばれ、戦国時代に山内上杉氏の居城として築かれたが、地形が狭いので、山内上杉氏は上州平井城に移り、当城には家臣の夏目豊後守定基をおいて守備させた。永禄年間には北条氏邦によって攻略され鉢形北条の属城となったが、天正十八年（一五九〇）に豊臣方小田原攻めの際、前田利家によって攻囲され落城した。その後天正十八年八月徳川氏の間東入国後、松平家清が一万石の格式を受けて領主となり居城としたが、慶長六年（一六〇一）三河國吉田城に転封されるや廃城となった。

現在、二の郭は児玉中学校、三の郭は県立児玉高等学校の敷地となっており、本郭の一部は公園として残されている。本郭は他の郭より一段と高く、中央に幅一〇メートルをこえる空堀があり、南側は断崖をなしている。

昭和五十八年三月

埼玉県



きじが おか じょう あと  
雉岡城跡

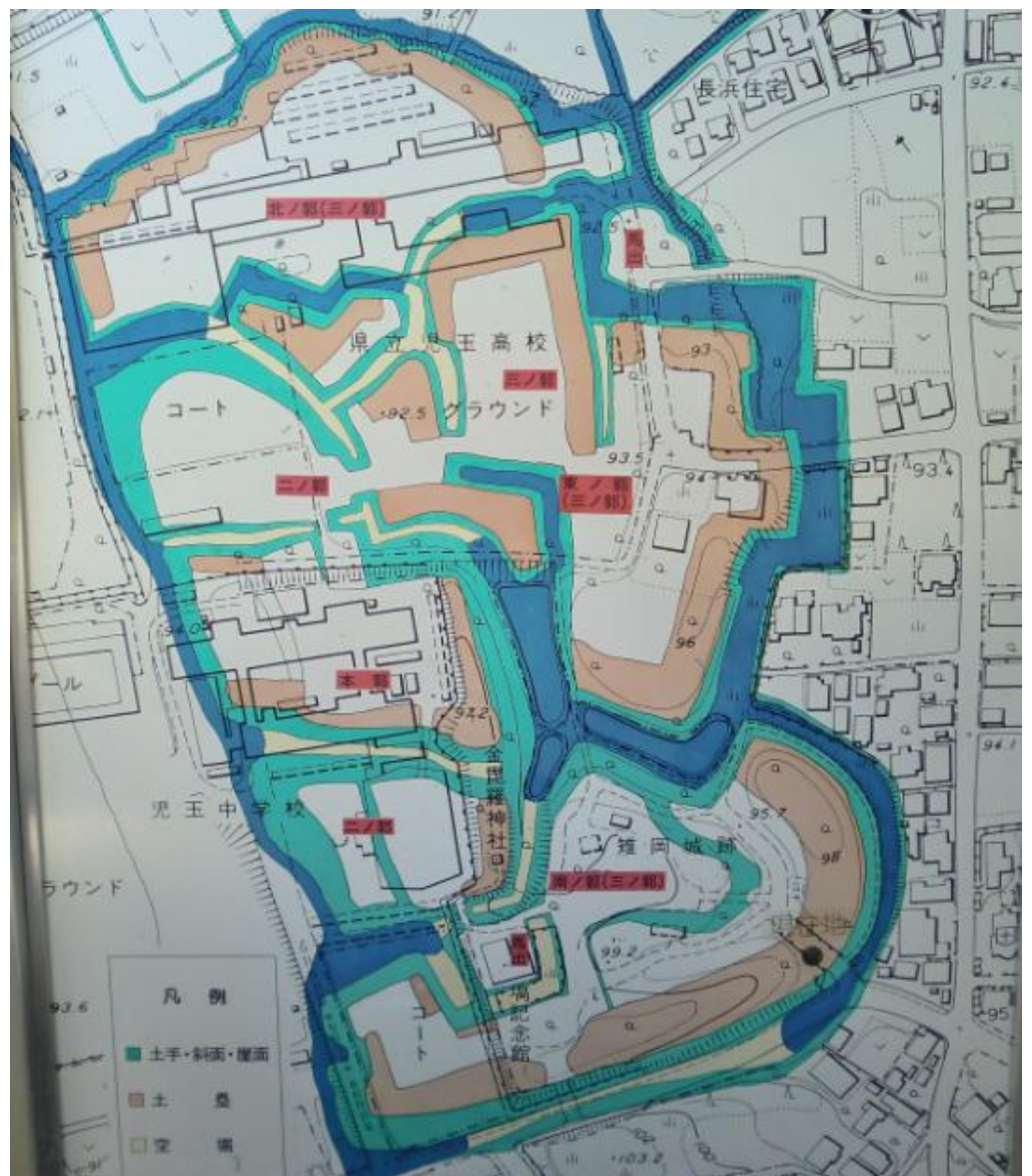
所在地 児玉郡児玉町大字八幡山

雉岡城跡は、別名八幡山城跡とも呼ばれ、戦国時代に山内上杉氏の居城として築かれたが、地形が狭いので、山内上杉氏は上州平井城に移り、当城には家臣の夏目豊後守定基をおいて守備させた。永禄年間には北条氏邦によって攻略され鉢形北条の属城となったが、天正十八年（一五九〇）に豊臣方小田原攻めの際、前田利家によって攻囲され落城した。その後天正十八年八月徳川氏の関東入国後、松平家清が一万石の格式を受けて領主となり居城としたが、慶長六年（一六〇一）三河国吉田城に転封されるや廃城となった。

現在、二の郭は児玉中学校、三の郭は県立児玉高等学校の敷地となっており、本郭の一部は公園として残されている。本郭は他の郭より一段と高く、中央に幅一〇メートルをこえる空堀があり、南側は断崖をなしている。

昭和五十八年三月







雉岡城三ノ郭(南ノ郭)の一部分と土塁、水堀、空堀、馬出しが残っているが、その他は児玉中学校、県立児玉高校のとなってしまう





正面の一段高い場所は南ノ郭(三ノ郭)跡





この左手にも「雉岡城跡」の表示がある





右手には案内板と石碑が立っている





県指定史跡  
**雑岡城跡と  
 周辺の文化財**



雑岡城跡 (県指定)

雑岡城は、15世紀中葉以降の関東の戦乱に伴って、鎌倉街道上道と開成管領上杉氏の居城平井城方面へと延びる上杉道の分岐点である児玉の地を抑える為に築城されたものです。また、鎌倉街道中でも最大規模の市が立っていた児玉の地から、享徳の乱の前線であった五十子陣に物資を供給する役割を担っていたものと推定されます。

この雑岡城の周辺には、各時代  
 にわたる数多くの文化財があります。



龍進社横輪遺基 (県指定)



美相寺の経塚 (市指定)    天龍寺の経塚 (市指定)



児玉町旧配水塔 (市指定)    玉蓮寺の経塚 (市指定)



八幡神社社殿と鳥居 (県指定)









振り返ると土塁跡を背にしてやはり石碑が立っている





その後ろの土塁跡を郭内から見る









これはこの土塁跡を郭の外から見たところ/土塁跡の斜面に沿って水堀跡が続いている









さて、一段高い南ノ郭(三ノ郭)跡に登ってみる





前方へ行って振り返って見る





左手の斜面を眺める/正面前方が最初の「公園の入口」(東方向)





北方向を見る





西方向を見る/水堀が見える





さて、一段高い南ノ郭(三ノ郭)跡の西側に看板が立っている





### 夜泣き石 (親子石)

この石には 次のような伝説があります

昔 殿様の夕顔に針が入っており 怒った奥方は 側女お小夜の仕業だと思い とりしらべもしないで お仕置井戸に生きだまま沈めさせてしまいました

その時 お小夜のお腹には 生まれるばかりの赤ちゃんがいたそうです お小夜の死後 お城ではお乳がにしみ 飲み水も池の水も白く濁り 夜になると お小夜の泣き声が どこからともなく聞こえてきたそうです

また 井戸からお小夜の棺桶を引き上げてみると 大きな石になったお小夜は 子供石を抱いていたそうです 子供を思う親の心に 奥方はお小夜に対する仕打ちを後悔し お堀り端にこの二つの石を祀り 女達に慰めの言葉をたやさめよつこと頼み 髪を切つて喪に服したと言ひ伝えられています

(児玉の民話より)

児玉町教育委員会

橋保己一記念館



西面の空堀跡を見る





これが夜泣き石





さて、すぐ近くに建物が建っている





ここは塙保己一記念館





はなわ ぼ きいちき わんかん  
埴保己一記念館

所在地 本庄市児玉町八幡山

埴保己一(七四六―一八二二)は、郷土が生んだ我が国屈指の国学者である。享和三年(一七九六)五月に武蔵国児玉郡本庄市児玉町八幡山に生まれ幼時に失学した。十五歳の時に志をたて江戸に出て開成学校(現寛一)の門に入った。音曲・射法・俳諧等の修行に勤むとともに、自ら志した専門の道に進み、松原宗因や夏目真淵等に師事した。その後、学者として名声が高まり、水戸藩の依頼により『大日本史』の校訂を行なった。寛政五年(一七九三)には幕府に進言して和学講談所を設立し、ここを国学研究の拠点となし、歴代私塾・中山宿名・奈佐陣屋等の有識者を出した。

己一の業績で最も知られているのは、『群書類説』の編纂で、古代以来我が国に残されてきた類聚の記録や貴重な書物の散逸を憂えて、これらを集めて分類・校訂して版本に起こし印刷刊行した。『群書類説』は我が国の歴史や文学を研究する上で現在でもたいへん貴重な資料集となっている。

己一は文政四年(一八二二)に総持校となり、同年九月十二日に七六歳で没した。

- 収蔵品 遺品及び歴史資料等
- 休館日 毎週月曜日、年末年始
- 開館時間 午前九時～午後四時三十分
- 入館料 無料

平成十九年十二月

本庄市教育委員会





はなわ ほ きいち きねん かん  
塙保己一記念館

所在地 本庄市児玉町八幡山

塙保己一(一七四六―一八二二)は、郷土が生んだ我が国有数の国学者である。延享三年(一七四六)五月に武蔵国児玉郡保木野村(現本庄市児玉町保木野)に生まれ幼時に失明した。十五歳の時に志をたて江戸に出て雨富検校須賀一の門に入った。音曲・針治療等の修行に励むとともに、自ら志した学門の道に進み、萩原宗固や賀茂真淵等に師事した。その後、学者として名声が高まり、水戸藩の依頼により「大日本史」の校訂を行なった。寛政五年(一七九三)には幕府に進言して和学講談所を設立し、ここを国学研究の拠点とし、屋代弘賢・中山信名・奈佐勝卓等の有能な学者を輩出した。保己一の業績で最も知られているのは「群書類従」の編さんで、古代以来我が国に残されてきた諸家の記録や貴重な書物の散逸を憂えて、これらを集めて分類・校訂して版木に起こし印刷刊行した。「群書類従」は我が国の歴史や文学を研究する上で現在でもたいへん貴重な資料集となっている。保己一は文政四年(一八二二)に総検校となり、同年九月十二日に七六歳で没した。

収蔵品 遺品及び歴史資料等  
休館日 毎週月曜日・年末年始  
開館時間 午前九時～午後四時三十分  
入館料 無料

平成十九年十二月

本庄市教育委員会







記念館の右手背後に石造物があった/向こうは児玉中学校の敷地となっている





このすぐ脇に金毘羅神社がある





児玉中学校との境界のフェンスに沿って北方向を見る/右手は金毘羅神社境内となっている





左手は二ノ郭跡、その向こう(北側)は本郭跡のエリアという





こちらは二ノ郭跡エリア





境内を進んでみる













右手の木に「芭蕉句碑」と記された矢印がある





これが「芭蕉句碑」





これは記念館の東面と南面に残る空堀跡で記念館の建っているところが馬出跡という









南側の土塁跡を見る









さまざまな石造物













ここは西側の大手口といわれるところ





土塁跡の頂部に像が立っている





騎馬武者像





振り返って見る/左手が郭内/右手は道路となっているが堀跡のエリア





土塁跡と堀跡の高低差が見てとれる





郭内から見た土塁跡





さて、一段高い南ノ郭(三ノ郭)跡に戻る





北方向を見下ろす





斜面を下りてきた方向を見る/左手は土塁跡/正面に水堀跡が延びる





右手を見る/土塁跡と水堀跡





左手を見る/両サイドの土塁跡と水堀跡/正面土塁跡の向こうが本郭跡、右手土塁跡の右手が東ノ郭(三ノ郭)跡のエリア





左手土塁跡の足元に説明板が立っている





正方形の柵が「水道の井戸」跡のようだ



水道の井戸

児玉町は長い間 水不足のため  
に苦勞を繰り返してきました  
この井戸は大正期に児玉町の  
上水道用にとつくられた 源泉  
の 井戸です きれいな湧き水  
を利用した 上水道であつたと  
いわれていますが その後水量  
不足や費用の関係で廃止され  
上水道施設は連雀町小中山に移  
設され

玉町教育委員会



土塁跡は回り込んでいるが正面の空堀跡に先ほどの「夜泣き石」がある





こちらは右手の土塁跡





正面(北方向)が県立児玉高校のエリアで東ノ郭(三ノ郭)跡、北ノ郭(三ノ郭)跡のエリアとなる/左手土塁跡の左手が本郭跡









右手の土塁跡に登ってみる









北方向を見る





回り込んだ土塁跡の頂部を見る





その土塁跡の右手斜面と水堀跡を見る





## 参考ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-ymh/kakuchi/kodama01/kijioka.html>

[http://members2.jcom.home.ne.jp/70little\\_rascals0201/saitama\\_kikaku/honjyo/kijigaoka/kodama\\_kijigaoka02.html](http://members2.jcom.home.ne.jp/70little_rascals0201/saitama_kikaku/honjyo/kijigaoka/kodama_kijigaoka02.html)

<http://www.geocities.jp/ikomaihigasi/saitama/kijioka.html>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s5/kijioka.htm>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/kizigaokazyo.htm>

<http://www.geocities.jp/tsukavan0112/subdir-siropage/kijigaokaiou.html>

<http://www.digistats.net/usakoji/shrine/03/577.htm>

<http://saitamano.blogspot.jp/2012/06/blog-post.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/dougen2005/63401249.html>

<http://www2.plala.or.jp/tyosokabe/shiseki123.html>

<http://gr1rsk.blog.so-net.ne.jp/2006-04-23-2>

[http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12\\_Saitama/kijioka/index.html](http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/kijioka/index.html)



[http://outdoor.geocities.jp/kojyo\\_annai/3\\_kanto/9\\_saitama/kijigaoka\\_shiro.html](http://outdoor.geocities.jp/kojyo_annai/3_kanto/9_saitama/kijigaoka_shiro.html)

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mononofu/kijiokazyou2.html>

<http://homepage2.nifty.com/inutomononohu/kiziokahoumon.htm>

[http://homepage1.nifty.com/05170517/zenkoku/saitama/888\\_kodamatokikuniyakata\\_1.htm](http://homepage1.nifty.com/05170517/zenkoku/saitama/888_kodamatokikuniyakata_1.htm)

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/kodamamati.htm>

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/200kijioka/kijioka.html>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.kodama.html>



